

## 1 コンゴ内戦を知っていますか？

コンゴ内戦を知っていますか？  
レアメタルの争奪戦から内戦に発展し、多くの人々が犠牲になっていることは、耳にしていました。  
そして、アフリカを世界地理で扱うのであるなら、レアメタルと内戦・携帯電話の問題を、ぜひ取り上げたいと思って約 10 年前にも授業していました。



しかし、これほどひどい戦争状況になっているとは・・・。

NHK 海外ドキュメンタリーを数本見て、改めてそのひどい状況に  
啞然とし、言葉を失いました。



ドキュメンタリーの一本は、ムクウェゲ医師の活動を追ったもの  
(2015 年)です。

コンゴ内戦では 1996 年以降で、推定 20 万人がレイプされたと言われている  
そうですが、そうした被害者の女性の心をケアし、傷を治療する  
活動をしている現地の医師です。

ムクウェゲ医師によれば、コンゴではレイプが武器として使われる。そうした被害者の心も体も「修理する」  
そういう仕事をされている・・・という紹介でした。

ルワンダは内戦から立ち直りつつある国ですが、逆に、ルワンダ内戦で逃げ出した武装勢力、そしてそれを追ってコンゴに侵入したルワンダ政府軍の一部・その他の武装勢力が、今も戦闘を続けている・・・。

ルワンダ内戦の悲惨さは、忘れることができませんが、その傷は、今度は隣国のコンゴを、しかも欲得のレアメタル採掘という要素を新たに含んで、際限なく傷口を広げているようなのです。

ムクウェゲ医師によれば、性暴力というよりも性的テロリズム。

それは、性的欲求によってなされているものではなく、「村の女性を無差別にレイプする作戦」  
として行われるから・・・。

声を失うのは、1 歳未満の赤ん坊も 80 歳のおばあさんも、村のありとあらゆる女性が、同じように局部にナイフを突き立てられたり、切り裂かれたり、銃を打ち込まれたり、・・・それもわざと家族の前でレイプして・・・という事実。

そのことによって、生命を奪われることもあり、生きた屍のようになることもあり、傷が治ったとしても、畑や家事労働で働けない、家族も村もコミュニティもが、恐怖で支配されてしまう。そして、村の重要な働き手である女性たちが畑で生産活動をできなくなり、一家の収入の道も絶たれてしまう。

被害を受けた女性は、そのことを明らかにすることは決してなく、家族からも村からも疎外されて孤独の中に、生きなければならない。

体の傷の中には、ムクウェゲ医師が手術しても、亡くなるほど重大な傷もある・・・。

ねらいはその村の地域を鉱山にするための村人の追い出しであったり、コミュニティを破壊して男性を鉱山の採掘労働者＝奴隷労働とすることだったり・・・。

それなのに、なぜレイブなのかと言えば、一番安価な武器なのだ、・・・ルワンダ内戦の時には累々たる死体の山が報道されて、世界中に非難された。死体を残すのはまずい。証拠として、追及されるから・・・。

鉱山採掘をねらってその地区の村の立ち退きをさせるのに、殺す方が簡単だとしても、その証拠が残ってしまう…それに比べレイブは隠された傷として、表に出ることなく、人々を恐怖に陥れ、支配を可能にし、抵抗を奪って、地区の男性を奴隷労働にも駆り出すことができる・・・。  
だから、そういう作戦が取られるのだという説明がされていました。そして、犯人は捕まりません。政府の機能が崩壊しているから。例えば、1000人殺せばこの国では将軍になれると嘆くムクウェゲ医師。

人間ではない、悪魔ではないか、・・・どこに人間性があるのだろう・・・、悪魔のような犯罪です。その国の社会を、根底から崩壊させるような卑劣な軍事行動。しかし、この問題を正面切って中学生の子どもたちに問うには、あまりに現実が重すぎる。

ムクウェゲ医師の活動を私が踏まえたうえで、それでも多くのコンゴの子どもたちが犠牲になっていることを伝えたい。

それも私たちが使うスマホがそれを助長し、内戦に油を注いでいるのは先進国の携帯だということを知っておくことは大事なことで、ぜひ伝えたい。

そう考えて授業をすることにしました。

## 2 今回は授業論から・・・

4月の最後に、とてもうれしい言葉を子どもたちからももらいました。雑談の中のひとこと。

クラスで雑談をしていた子どもたち。今年は、3年生の公民を1クラス、私が受け持つことを知って、噂をしています。

3年生の男子生徒から、「あの先生やばいよ」と言われたとか・・・

胸の中で私は「ああ、南アフリカに一人、60歳で行ったよと3年生に、はっぱをかけたことかな？」と思っていたら、・・・。

何がやばいかを推測して、子どもたちはこんなことを言っていました。

「きっと、授業 わかりすぎるからやばいんじゃないねえ・・・」

私は「えっ??? 授業がわかりすぎるからやばい??? そんな表現があるのか」と驚きながら、内心ニンマリ。

「わかりすぎるからやばいとは・・・」

昨年1年間授業を受けてきた結果として、この言葉を言ってくれるとは、ありがたきは生徒たち。でも、35年間「楽しくわかることに一生かけてきた私の仕事」が評価されたのだと、ほんとうにうれしい言葉のプレゼントでした。

そこで、この授業のプリントは、いつもなら授業へ一直線に進みますが、今回は授業づくりの方法

論も含めて進もうと思います。

今回は、結論ははっきりしているので、さらにわかりやすく説明できると思いますので・・・。

### 今回の授業の結論は？

- ・コンゴで採掘されたレアメタルは、携帯電話に使われている。
- ・その一方で、レアメタル採掘のために、コンゴの子どもたちは内戦に巻き込まれ、たくさんの犠牲者が出ている。

まず、授業をする時、授業をする側＝教師の側に、はっきりと伝えたい内容があれば、30%ぐらい、授業は成功します。

やはり伝える側の熱意は、まず重要。

逆に、教科書に載っているから・・・、教えなくちゃならないことだから・・・、受験に出るから・・・、それだけで、伝える側がその内容に全く魅力を感じなければ、

「伝えることも義務」でしかありません。

義務の授業は、受ける側も、義務の部分が最大限大きくなって苦痛です。

(もちろん、教科書に載っている内容も、伝える側がたくさん勉強して、そのおもしろさや魅力を感じれば、二倍三倍、十倍伝わります。

私にとっては、未来を担う子どもたちに、将来にわたって伝える価値のある内容かどうか、一番重要だと思っています。)

今回の場合、結論ははっきりしているので、どう伝えるか、方法について考えます。

さまざまな方法がありますが、その特徴を・・・。

|   | 方法                    | 子どもたちの様子  | わかる度 | 長所   | 欠点  |
|---|-----------------------|---|------|--|---|
| ① | 板書して<br>箇条書き<br>にして説明 | 聞いては、いる。<br>1時間続くと眠くなる。<br>いっしょうけんめいノートを取る。<br>社会の嫌いな子はノートを取らない子も・・・。 | △    | 簡潔<br>授業をしたことは事実。<br>ノートにちゃんと記録として残っていて勉強した感じ満点！ | すぐに忘れる。<br>眠くなる。<br>字を書くのを嫌いな子はノートは真っ白。<br>ノート点検が大変               |
| ② | プリントを<br>作って<br>説明    | 記入する時は一生懸命。<br>プリントの文章や言葉については、聞いているようで、読んでいるようで、あまり頭に残ってない。          | △    | 教師の側が、1時間の授業の見通しがつく。<br>筋が外れず、戻る基準があるので、脱線話も大丈夫。 | プリントをすぐ捨てたり無くす子が必ずいて、何も貼っていないと、ノートは真っ白。あるいはファイルは空っぽ。<br>ファイル点検が大変 |

|   |                         |  |   |  |   |
|---|-------------------------|--|---|--|---|
| ③ | 視聴覚教材を使う                | 映像を見るというだけで、子どもたちは喜ぶ。目で見てわかることは重要。                                 | ○ | 百聞は一見に如かず。言葉ではわからない子も見てわかる。記憶に残る。編集するとピンポイントで理解することも。社会が嫌いな子もイメージしやすいので好きになる。                                  | それでも受け身なので20分以上だと寝る子が必ず出る。垂れ流しの使い方すると逆に一切記憶に残らない。番組内容を丸ごと使うと時間が足りなくなる。だから編集が必要。   |
| ④ | 実物にさわる                  | 見るだけでなく、さわることによって、驚きも出てくるし、興味もわく。                                  | ○ | 話を聞くだけよりは記憶に残る。イメージの違いに驚いたり、さわった感じに気付いたり、自分の感覚を手に入れるので、覚えやすい。  | 写真を見るだけでわかったと思っている子たちにとっては、必要性を感じなかったりする。壊されたり、無くなったこともあるので、覚悟をすることが必要。   |
| ⑤ | その内容を体験する               | 体を通して学ぶことができるから、一番印象に残って大喜び。                                       | ◎ | 特に言葉や知識に苦手意識を持つ子(芸能教科の方が得意な子たち)は、大活躍。社会のイメージを一気に変えて、好きになってくれる。また、社会科の「生産と労働」の本来の姿を取り戻すことができる。暗記でない社会科の本来の姿と思う。 | 準備が大変。お金もかかる。ものづくりなので、その作業に関する技術と知識が必要。子どもたちといっしょに体験する際の、別の配慮もたくさん必要。危険性、進度が違う子たちへの対応、道具の使い方への配慮、不器用だと言って自信が無い子への配慮・・・など。 |
| ⑥ | 体験の中でも、何かを食べる(作って食べる)経験 | これは、最高の授業として、子どもたちは大好き。一生忘れられない記憶。私自身が50年たっても家庭科の調理実習は忘れないくらいですから。 | ◎ | 地理を扱う時には、食べ物で文化がわかる。人間は食べ物を得ることで人生の半分以上を使っているから重要。世界地理ではとても大事だと思っている。人類史では農業革命で、米と小麦とトウモロコシ、雑穀はとても重要。          | アレルギーの問題、食中毒の問題など、問題は数多い。だから、試食の時には指先ほどしか量を渡さない。アレルギーの危険性が有る物は扱わない。衛生面でも、工夫が必要。私はお弁当の銀紙カップ小などを利用。                         |
| ⑦ | 調べ学習<br>新聞づくり           | いっしょうけんめい調べたり、新聞を作ったりすることは喜ぶ。                                      | △ | とてもきれいな新聞を作ったりして、子どもたちの達成感が高い。   | 内容として理解できたかどうかは？<br>新聞づくりや文章を書  |

|   |          |  |   |  |  |
|---|----------|--|---|--|--|
|   |          |  |   | 自分で課題に興味を持てる子は、どんどん自分の世界を作り、発展させることができる。                                       | くのが苦手な子との差が歴然とつく。調べると言っても、内容を写して書くだけでは、中身については？  |
| ⑧ | 班やクラスで討論 | 子どもたちは割と好き。友だちの意見を聞いたり、異論が出てくるのがおもしろい。ただ、最後のまとめの形があいまいになりやすい。(ディベートのように勝負をつけるのは、私は良しとしない。勝負に意味がないため：政治家にならない子がほとんどでしょう?) | ◎ | 激論を交わすような討論になれば、自分の立場をはっきりせざるを得なくなり、子どもたちの集中力も増して、理解もさらに深まる。もし、自分なら…と考えるようになる。 | 意見が対立しなかったり、当たり前のテーマのような討論であると、盛り上がりせず、一部の生徒たちが活躍するだけで、まわりは静観しているだけ。自分の立場は問われない。表情を見ても、何が争われているのか理解不能の表情が増えると、せっかくの討論が意味がなくなる。 |

私の場合、調べ学習や新聞づくりは、扱いません。

その必要なぼう大な時間に比べて、子どもたちの理解が深まる範囲が、とても狭いからと、子どもたちの理解の差が、大きく出てしまうためです。

もっと時間があり、内容ももっと少なく、自主性を重んじる教育内容に大幅に変わることで、一クラスの人数が、せめて20人以下であること、そうすれば可能だと思いますが、今の義務教育で40人弱の子どもたちに、社会科を好きになってもらい、最低限に絞った内容をどの子にも理解させて、・・・その上で覚えられる勉強にするには、とてもむずかしいと思っています。

ですから中心は、板書・説明・視聴覚教材・実物教材・体験・討論になります。

これを、同じパターンでやると、すぐに子どもたちは飽きてしまうので、手を変え品を変え、いつも驚きと楽しさがあるように、それでいて「わかった」と言ってもらえるように、方法は考えます。内容によって、その方法の適・不適がありますし、子どもたちの成長の度合いもあります。

ですから、子どもたちには、こう表現しています。

「一年生は、“食べる”社会科(地理が中心のため)」

「二年生は、“体験する”社会科(歴史の中世や産業革命など)」

「三年生は、“討論する”社会科(歴史の戦争の時代や公民の憲法で)」

今回は、どういう方法を使うか？いくつか考えていました。

①板書で説明・・・基礎知識をまず理解する必要がある。

②映像を見せる・・・コンゴの子どもたちの様子、レアメタルについての映像

③携帯の部品でかわれるものがないか？

### 3 映像を選び、考える…何をどう伝えるか？…

この授業で、一番大事なものは映像です。

現実の姿を伝える映像、それも子どもたちが十分感情移入ができて、よくわかり、忘れられない映像……。

NHKの海外ドキュメンタリーを見る中で、そうした優れた番組がいくつもありました。

二本、「血塗られた携帯電話」と「コンゴ 忘れられた子どもたち」です。

この二つのドキュメンタリーについて簡単に紹介しておきましょう。

#### 血塗られた携帯電話 (Blood In the Mobile)

2010年デンマーク コンサーン TV

監督：フランク・ピアセキ・ポールセン

「シネマ フォー ピース “正義への貢献”賞 受賞」



そのタイトルのどぎつさに、度肝を抜かれますが、実際にその通りなのだから、仕方がない。

コンゴの人々の血によって、<sup>あがな</sup>贖われているのが、携帯電話であり、パソコンであり、私たちの高度な情報社会だという事実を、何とか目で見える形で伝えようと取材した記録です。

手法は、アメリカのマイケルムーアに似ている。

マイケルムーアがあの手法を確立したのかもしれませんが、加害をしている大企業側に突撃してインタビューを試みる。



この場合は、携帯電話会社のノキアがその相手です。

レアメタルを、どこから購入しているのか、インタビューを申込み、取材すると同時に、レアメタルの採掘現場に……つまり現地コンゴに入って、採掘する様子を取材します。

例のごとく、大企業は取材・インタビューを、おおむね拒否。

何度も取材交渉をして、最後にインタビューが成立しますが、大企業の担当者は、「善処する」「他社と足並みそろえて、解決に向かうよう努力したい」「でも難しい」そう笑顔で答えます。

……う～～ん、この取材交渉とインタビューは、子どもたちにはわかりにくいだらうなあ……

大人にとっては、大きな問題提起ですが、「ノキア」の会社や広報担当者や企業の上層部のことが想像できない。知っていることや事実を隠しているのでは？と鋭い目で見通すことは、中学生にはむずかしい……。

また、採掘現場の取材が、危険地域で、短時間で切り上げざるを得なかったせいか、ノキアとの交渉が何度も何分も出てくるので、そのパターンに子どもたちは眠気を誘われます。

(ここで一応断っておくと、朝練から最終下校まで部活で、体と心を使う中学生たちが眠くなるのはすぐです。ビデオが始まって2～3分、一瞬で眠ってしまう子たちもいます……。授業をす

る方はつらい・・・)

ですから、中心は、私が衝撃を受けたレアメタルの採掘を中心にすえることにします。

その衝撃の内容は？

・アリの巣のように掘られている。坑道の柱など見当たらず、やたらに手あたりしだい掘っているだけ。・・・この危険性に私は衝撃を受けました。

九州の炭鉱地帯の様子を山本作兵衛さんの画集で見ましたが、明治時代の日本の中小の炭坑のようです。それと同じで、落盤事故が起こって生き埋めになるのも感知しないようす。

鉱山は軍が管理し、安全対策などももちろん考えず、掘った分からピンハネをして、ヤマに縛り付けている。そしてこの鉱山をねらう他の武装勢力が襲ってくるので、いつ殺されるかわからない。

・山の中のジャングル、車を降りてから、2日間歩くようなジャングルの中が鉱山。

・そこから人力で幹線道路まで、レアメタルを背中にかつぎ、運び出している。

・掘っているのは、大人もいるが、少年たちも多い。

・もう一つ言うのであれば、肌の茶色なアフリカ人の中に、取材陣として真っ白な肌のヨーロッパ人が取材に行くのは、殺されに行くようなもの、・・・坑道に入った途端に、採掘している労働者に怒りを持って止められ、採掘の現場の映像はたった5秒程度でした。

それでも、その取材の勇気は、戦場カメラマンと同じものだと見ていて強く思いましたし、その点(=命をかけるほどの危険性)を、子どもたちに見せる時にも、ていねいに説明しました。

ドキュメンタリーを、4回ぐらい見直して(途中で私も眠くなってしまうので、アッと気付くともう終わっている・・・そうして始めから見直し)、選ぶ場面も決まりました。

## コンゴ 忘れられた子どもたち(Congo's Forgotten Children)

2009年 イギリス

製作：ブレイクウェイ プロダクションズ

こちらのスタートは、森に隠れる村人たちから。

武装勢力が襲ってくるので、森の中に隠れるしかない・・・。

でも、この少年たちがかわいらしい。ペットのハムスター(でも食料不足の時には食べるらしい)を、「隠していたんだよ、取られるかと心配だった」4歳ぐらいの男の子3人、兄弟でしょう。

草の葉を使ったかごの中に隠れるハムスター。

「かわいらしい、良かったね」と取材チームが話しかけています。



武装勢力が村から立ち去れば、村に戻ります。

でも、家に戻っても、何もかも奪われ、何一つ残っていない・・・。

男の子を連れていたおばあちゃんが嘆きます。

「ベッドすら持って行ってしまった。一から始めるのなら死んだ方がいいくらいだ・・・」

武装勢力の兵隊たちも、給料が出ずに働いているので、村からすべての物を持ち去って、市場に持って行って売り、何十円でも何百円でも、食料を得ないと生きていけない・・・。

持って行くのは、金目の物だけではなく、子どもたちの教科書も鉛筆も書きかけのノートも全て・・・。



女の子が取材班に直接語るのは「服を全部取られちゃったから・・・(裸で) 森に逃げるから、眠れなかった。気持ちが悪くなっておならが出ちゃった」

はにかむ女の子がかわいらしい・・・。

それでも続きの話はおぞましいようすです。

「森でみんな食べる物が無くなって、具合悪くなったり、下痢したり、飢え死にしたりする人もたくさんいて、死んじゃった。」

「兵隊は、みんな、見ている前で手あたりしだい殺してしまうの。」

「私は気を失ったの。胸がいたくて死にそうだった。兵士はその人に乱暴してから体を切り刻むの」笑顔でかわいらしくて、優しい声でしゃべる、コンゴの小学生くらいの女の子が、とても痛々しい。

人が亡くなる映像よりも、彼女の言葉が、中学生たちの胸にずしんと重く響くだろうと、思います。

孤児を世話する施設にいる何百人というおむつをした乳児、よちよち歩きの幼児、小学生ぐらいの年齢の子どもたち・・・

これは、コンゴの東部にいる30以上の武装勢力が、入れ代わり立ち代わり村をおそい、そのたびに森に逃げ込む・・・この10年から20年間に、十回以上もこうした行動をせざるを得ない村人たちの中で、生まれてしまった状況です。両親とはぐれてしまったか、両親が殺されてしまったか、・・・。



もう一つ重大な問題を、この番組では取り上げています。

少年兵の問題。

軍や武装勢力は、少年(中学生くらいか?)を、誘拐して兵士に仕立てますが、その少年兵たちに命令して、さらにその下の年齢の少年・幼児たちをも誘拐して兵士にさせるよう、活動させているのです。

親元から誘拐されて、兵士として人殺しをしてきた少年たちは、逃げ出して村へ帰ろうとしても、その力への信仰、何でも暴力で解決してきた習慣、罪の意識を持たずに成人することはできない・・・という事で更生施設で、リハビリを受けているようでした。

しかし、軍隊がいかにいけないか・・・をその更生施設の職員が話し合っって認識を深めようとしても、大混乱、その様子が描き出されます。

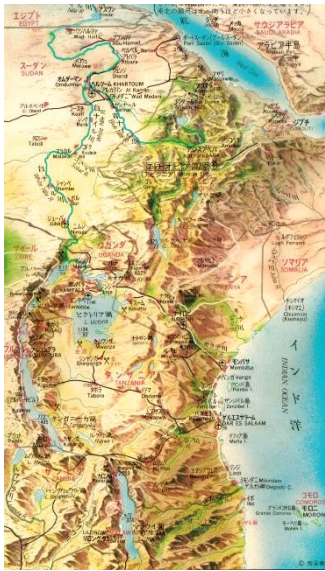
また、村へもどっても、家族できえ歓迎せずに、遠くから実のわが子を眺めるだけ。「もう、人は殺さないのか? 暴力は振るわないのか?」という質問で始まる親子が再会して初めての会話。私たちにとって、当たり前前の普通の生活、親子関係が、なんとむごく打ち砕かれているのか・・・と、これも強烈な印象を残す映像でした。

この二つの番組・映画が強烈ですから、これを生かし、さらに子どもたちに近づけるように授業しようと構想して準備は終わりです。(…これは後で出てきます)

#### 4 さあ、授業を始めます。アフリカの資源と地形から・・・

地球には、もともと一つの大陸しかなかった、それは聞いたことがあるでしょうか? ウェゲナーという学者が20世紀の初めに唱えた説でしたが、始めは見向きもせずに、相手にされませんでした。





それが、地学の発展にともない、「大陸は地球のマントルの上に浮かんだプレートのようなもので、少しずつ動いている。もともと Gondwana 大陸のように一つだった」と、いろいろな方面から証明されるようになりました。

さて、プレートはマントルの動き(=地球の中心部に引き込まれる流れと、中心部から外側に向かって上昇する動き)によって、引き裂かれる箇所と、地球中心部へと引き込まれる箇所と、その二つが存在していると言われています。

日本は、そのまさに、中心部へ引き込まれる箇所。だからこそ、日本海溝という世界で最も深い海があり、プレートのひきつれが、大地震を起こし、東日本震災もそのゆえでした。

アフリカは、逆に、引き裂かれる大地。

アフリカ東部の北から(スーダンも) 南(南アフリカも)にわたって、大地溝帯が広がり、いずれは、その裂け目は海になってしまうと言われています。しかし、それは、何十万年ものあとのこと。

人間に関係するのは、火山活動や地震ですが、それだけでなく、プレートがマントルと接する部分、例えば、アフリカの大地溝帯も日本の日本海溝も、だからこそ、プレートに含まれるさまざまな金属や元素成分が、地球の熱によって、変成したり、マントルの動きにともなって地表の付近に浮かび出てくる箇所なのです。

本来は、コンゴは、大地溝帯の付近にあるからこそ、豊かな資源の国。世界一と言ってもいいそうです。それだけでも十分食べていけて、豊かになれるぐらいの資源豊富な国。

そして、資源だけではなく、豊かな大地は、熱帯と高山帯の気候で、食べる物に困らない、本来はそういう国なのだそうです。

アフリカの資源について白地図の作業をしながら、資源が豊かな原因と、だからこそ、昔からダイヤ、金、プラチナをめぐって、南アフリカ共和国やコンゴが、植民地として支配されてきた事実を伝えます。地図帳を使って舞台のコンゴの場所、ゴマやルワンダとの国境を確認します。



## 5 次は問題提起。「コンゴ 忘れられた子どもたち」を見ます。

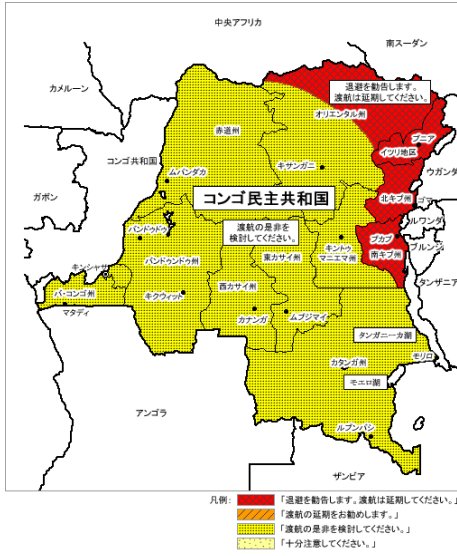
レアメタルをめぐって、内戦状態にあるコンゴについて、説明したあと、この番組を見ます。

編集して20分にした番組を見ます。編集したからこそ、わかりにくくなっている部分もあるので、それを理解するためのプリントを作りました。

(あらすじをあらかじめ書いたプリントを作る場合もありますが、この場合は、コンゴの東部に武装勢力が30以上も展開している状況を把握してほしかったのと、子どもたちの姿をプリントに載せたかったので、地図と写真を使いました。)

教室は静まり返り、子どもたちがひとことも発しないので、ちょっと不安になりました。番組の最中も、時々一時停止して解説、見終わったら、プリントで説明します。

# プリント1 「コンゴ・忘れられた子どもたち」・「血ぬられた携帯電話」



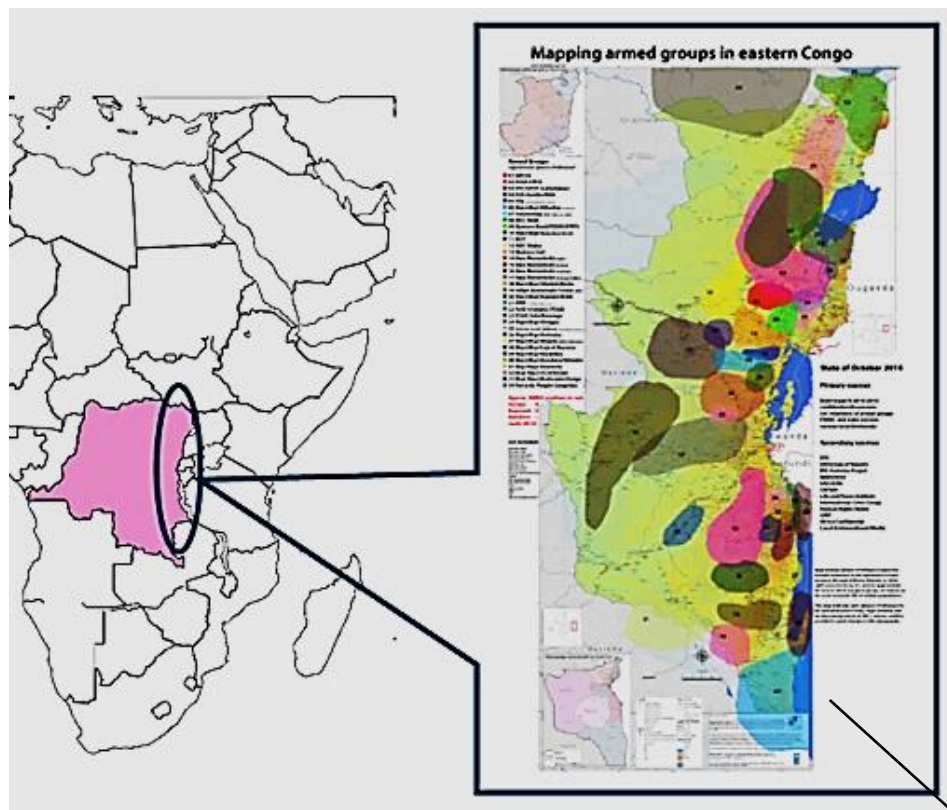
コンゴの東部は、日本政府から渡航を避けるように言われている地域。左の地図の赤い部分。危険が高すぎる地域。

いつ戦闘に巻き込まれるかわからない……。

下の図にあるように、武装勢力が20以上にわたって村や町をおそい、人々から略奪し、レイプし、残虐な殺し方をし、人々を傷つけている。村の人々は、武装勢力が来るたびに、家から森などに逃げ込み、何年もさまよったりする。家に戻っても、すべての物が持ち去られ、着る物まで脱がされてうばわれてしまうので、

病気になったり、食べる物がなくて飢え死にしたり、家族と分かれて、ひとりぼっちで生き残ったり……

武装勢力は、給料が出ないので、(昔の泥棒や山賊と同じ)、村をおそって全部奪って生活しているし、レアメタルを掘らせて、もうけて生活し、その金でまた武器を買う。レアメタルを買っているのは、外国の携帯電話の会社。



## 銃を持つ子ども兵

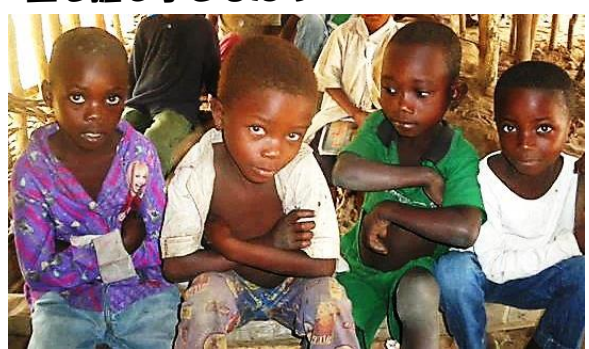


中学生くらいの少年兵  
20万人以上いると言われる



年上の少年兵に誘拐されこの子も少年兵になったか？

## 金を掘る子どもたち



鉱山労働者？  
こちらの子どもたちもとても幼い感じ。幼稚園くらいにしか見えない

色別が武装勢力  
これほどたくさんの軍が入り混じって、鉱山を争っている

## 6 レアメタルを掘るチャンス君

なぜ、こんなことが起きているのか、その理由の説明として、「血塗られた携帯電話」の映画を見せます。こちらも約20分。

最初に説明して、プリントを使って、場所を確認します。

この映画は、デンマーク、フィンランド、コンゴと、ヨーロッパ大陸とアフリカ大陸なので、写っている場所が、どこの国か、何をしているのか、わかりにくい・・・そこで、それが明確になるようなプリントを作成しました。

ポイントは、わかりやすくするには、どうしたらいいか？

番組に登場する人物の見分けがつくようにしなくてはいけない・・・そこで、10年ぐらい前から、番組の画面をデジカメで撮り、それを取り込んで、プリントを作るようにしています。

映画でも、物語でも、登場人物の見分けが付き、役割がわからないと話半分もわかりません。眠くならないために編集して短くするのなら、さらにわかりにくくなるので、プリントは必須です。それプラス、視聴しながら、私は、無声映画の弁士のように、解説を、すきまをぬって、的確に入れていきます。

それは、字幕の漢字の読めない子、字幕を読むスピードが追いつかない子、目が悪いのに画面を見やすい位置に移動するのを面倒くさがる子(教室には各自のテリトリーがあるので、なかなか移動したがりません。)・・・向けに、的確なところで、的確な声の大ききで、字幕も読みます。

ここでは、強調する点は三つ。

### ・取材の困難さ

大企業のシャットアウトと、人種の違う状況で内戦下で鉱山を訪れる危険性。  
ただし、それなりのお金を渡しながら、取材をしたらろうと説明します。  
それでも、掘っているところを撮影したのはすごい！！

### ・鉱山の採掘現場

軍隊が経営する鉱山で、少年チャンス君13歳が働いている事実。  
(それにしても働いているコンゴ人たちの陽気で明るいこと、少し救われます)  
アリの巣のような、アリ地獄のような鉱山  
一度入ったら、1週間入り続けたこともある  
(つまり穴の中でトイレも食事もした、睡眠も取った・・・)

### ・レアメタルは、先進国に運ばれる

先進国まで運ばれる様子はありません。  
高山から人力でレアメタルは担がれて町まで運ばれ、軍用機で首都に運ばれ、怪しいブローカーが仲介して、飛行機で貨物として、ヨーロッパやアメリカ、日本にも運ばれているのでしょう。





### レアメタルの鉱山

そこで働くチャンスたち



たくさん掘っても、税金や家賃・食料代  
通行料に消えてしまう。



軍隊

50キロ= 600円



飛行機で外国へ運ぶ

軍や 強盗相手に

レアメタルを買い取る怪しい会社



50 キロ= 18 万円



携帯電話

100 万台作れる

世界的携帯会社: ノキアなど



3 万円

のうちコンゴの  
レアメタル代 1 円以下?

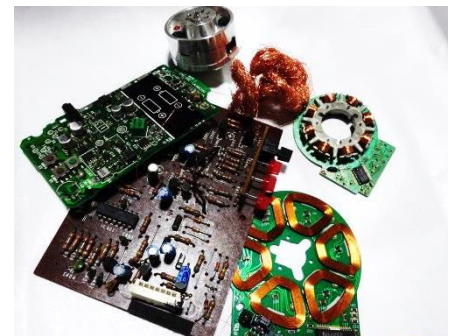


二つのドキュメンタリー映像を見た子どもたちは、強烈な印象を持ったようでした。発言は多くありませんでしたが、心の中の「ええ～～～っ、そうなんだ!!!」という声が、聞こえてくるように思いました。そういう表情を子どもたちはしていました。

でも、ここでこの二つの番組を見て、その感想をノートに書かせて、終わりでいいのか？授業が進むにつれて、そう思いました。

そのまま感想を書かせると、まるで道徳の授業のようになりかねません。私だって携帯電話を使っているのに、その矛盾をそのままにして、子どもたちに迫るのは、とても無責任に思います。

そう思ったら、すぐ行動。  
私が占領している資料室には、いろんなものがありますが、「そうだ!! 以前学校の廃棄電気製品＝おもに VHS テープデッキを、10 台近く中 1 の子どもたちに解体させた時、とっておいた、基盤があるじゃないか？タンタルの使われるコンデンサーだってわかるし、分解した銅線もあるから、銅がやたら使われているのもわかるぞ」



「ネットがある、レアメタルってどんなものかも知らないとよくわからないし・・・」

## 7 私たちの携帯電話のどこに、レアメタルが使われているのか？

携帯電話にレアメタルが使われている・・・これは、多くの人が知っていることです。でも、実際にどこに使われているのか？それは、なかなかわからないでしょう。・・・と思ったら、今の時代、ネットさまざま。ちゃんと、画像で出している人がいました。

子どもたちと最後に、1 時間使って、基盤をさわって、携帯電話の中の様子を画像で確かめ、レアメタルの正体の写真を見ました。レアメタルはとても美しい。宝石のようです。それなのに、人々の血を吸いこんでいる。

運よく、「ガラ系」の携帯電話の実物の分解した実物もあったので、それも 1 台、みんなで回して実物をさわりました。その基盤は金色に輝き、たぶん金メッキを施されているのでしょう。

都市鉱山で、「東京の携帯電話で、東京オリンピックの金メダルを作る」と話題を振りまいた知事の話にもつながりました。

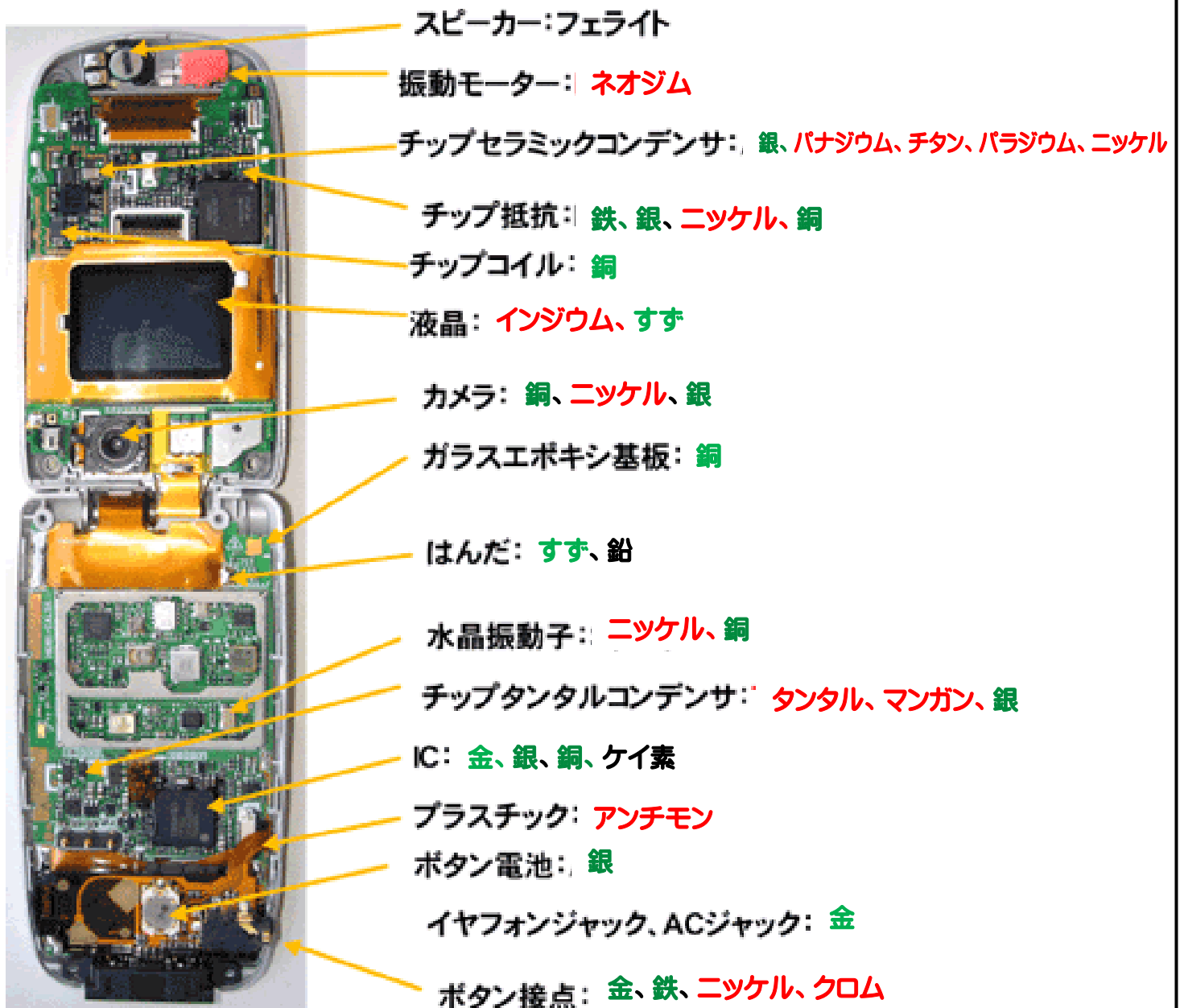


聞いてみると、使わなくなった携帯電話が、それぞれクラスの半分くらいの子どもたちの家にあるようです。今はリサイクル会社に出すようになってきているので、口から手が出そうになるほど「欲しい」と言いたくなりましたが、ここは自制して、・・・

携帯電話のような小型化が進んだのはタンタルのためだそうですが、目にも見えないほどの量のタンタルは、いくらさわっても、目で見つめても、わかるものではないのが、残念です。

# 携帯電話のレアメタルなど・・・をさがそう！！

赤字がレアメタル、緑色がコンゴで取れる鉱石



赤字がレアメタル

## コンゴで取れる鉱石

金 銀 銅 ダイヤモンド ウラン ラジウム = コンゴの鉱石が広島原爆に使われた

鉄 石炭 石油 ボーキサイト(アルミ) 亜鉛

コバルト ゲルマニウム カドミウム

タングステン タンタル すず ⇒ 内戦のもとになっている。



## レアメタル鉱石

赤が紛争鉱物。戦争の原因の大もうけする鉱石。



ニッケル【Ni】



クロム【Cr】



タングステン【W】



コバルト【Co】



モリブデン【Mo】



マンガン【Mn】



バナジウム【V】



プラチナ【Pt】



レアアース【希土類】



インジウム【In】



ニオブ【Nb】



金【Au】



スズ石【Sn】



タンタル【Ta】

### 8 私たちと近づけて考える、これから・・・。

最後に、子どもたちを挑発しました。

私「ねえ、みんな。携帯やスマホが戦争のもとになっているんだから、スマホを一台100万円にしたらどうかと私は思うんだよ。どう？」

レアメタルが安すぎるから、コンゴの人々の生活が苦しくなって、戦争が起きる。

レアメタルの値段を上げれば、コンゴの人々の苦しみは無くなるし、日本の中学生のラインのトラブルは無くなる。みんな、スマホをやっていた時間が無くなるから、勉強もするようになる。こんないいこと無いでしょう？」

みんなからブーイング。携帯ないと死んじゃう。「部活の連絡もできないから困る」「塾の帰りに親に迎えに来てもらうの頼めない」・・・予想通りの答えがたくさん。

でも、中に各クラス数人、「そうだね、先生、高くした方がいいよ・・・」そう、本気で言う子がいて、私の方が面くらい、驚きました。

感想を読むと、私にはクスッと笑いたくなるおかしな表現をして・・・「コンゴの人たちが苦勞して掘っているレアメタルを使っているのだから、大切に携帯を使いたい」・・・表現としては、ちょっと奇妙で「言いたかったことはちょっと違うんだけど…」と、突っ込みたくなった私ですが、中学1年生にとっては、遠くのコンゴの人々、そして、戦争のことを気かけながら、使わなくては・・・そういう意味なのだろうと思っています。そこまで通じれば、OKじゃないでしょうか？

## コンゴ内戦とレアメタル、そしてスマホの授業

### ねらい

- ①レアメタルが携帯電話など、最先端工業に使われていることを知る。
- ②そのレアメタルを採掘する現場＝コンゴが内戦状態にあることを知る。
- ③コンゴの人々の多数の犠牲の上に、今の最先端工業が存在していることを理解する。

### 授業の構成

- ①アフリカの地形と資源
- ②コンゴ内戦の実態、被害・・・子どもたちが犠牲になっている。

多数の子どもたちの悲惨な状況

少年兵＝暴力の再生産

- ③レアメタルを採掘している現場の様子
- ④では、レアメタルとは、何のことか？確かめよう
- ⑤携帯電話のどこに使われているか？確かめよう。
- ⑥じゃあ、どう考えたらいいだろうか？

(＊三年生なら討論をやってもよかったかもしれません。

どうやっても結論は出ないでしょう。でも、討論することで、自分の認識が揺さぶられ、事実が心に深く刻まれることになるかもしれません。

その討論には、私自身も参加し、結論が出ないねということになるでしょう。

さあ、そう逃げる私を、子どもたちは追いつめるのでしょうか？

自分を追いつめることはするのでしょうか、しないのでしょうか？)